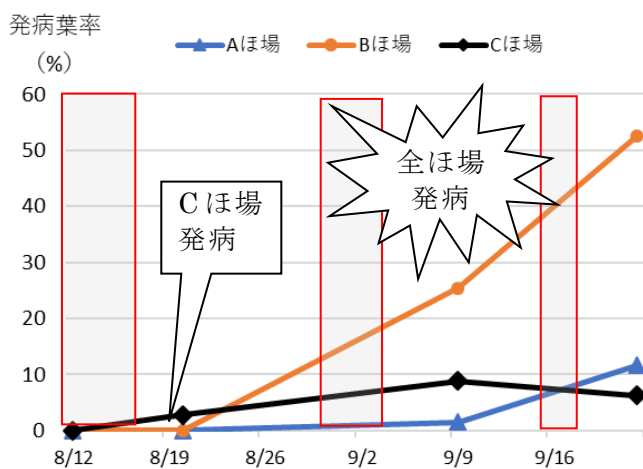


埼玉県におけるサトイモ疫病防除技術

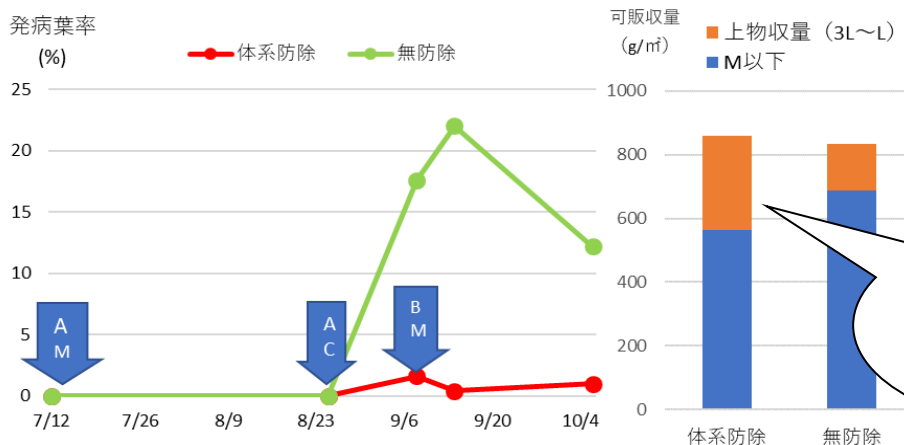
県内のサトイモ産地では2019年以降サトイモ疫病が多発して問題となっています。本病が発生しやすい気象条件は日平均気温 20~25℃、湿度 90%以上で、県内では茎葉が繁茂して群落内の湿度が高くなる8月中旬以降に上述する気象条件が現れると発病が始まりやすいことがわかりました。本県における効果的な防除体系を検討したところ、種芋の薬剤浸漬に加え、7月の土寄せ時に土壌散布できる粒剤(2024年8月時点未登録、登録拡大申請中)と8月中旬・9月上旬に本病に卓効を示す薬剤を組み合わせた体系で非常に高い防除効果が得られました。



サトイモ疫病

2021年調査ほ場における発病葉率の推移

図中の網掛け部分は日平均気温 20~25℃かつ湿度 90%となった期間を示す。



体系防除により、高値で取引される上物収量の割合が増加

体系防除による発病葉率の推移 (左図) と収量 (右図)

図中の矢印は薬剤処理を示す。

AM: アゾキシストロビン・メタラキシル粒剤

(2024年8月時点未登録、適用拡大申請中)

AC: アミスルブロム・シモキサニル水和剤

BM: ベンチアバリカルブイソプロピル・マンゼブ水和剤

(病害虫研究担当 TEL 048-536-0409)